

一本の電話

鳥取県 同慶寺副住職 おおにしきどう 大西基道

今朝は一本の電話というお話です。

それは、二年前のある夏の日のことでした。

地元の警察署から「お宅に中学三年生の男のお子さんがおられますね」と電話がかかってきました。

私が少し動揺していると、電話を通して聞こえてきたのは、「お宅のお子さんにはお世話になりました」という柔らかな声でした。

その内容は、中学三年の息子が、近所の郵便局の前で七千円が入った封筒を拾い、近くの駐在所に届けたこと。そして、そのお金は無事、落とし主の元に戻ったということでした。

続いて警察の方は、

「実は、落とし主が夕方お宅にお伺いして、直接お礼を言いたいと言っておられます。ぜひ都合をつけて、会ってあげてください。」と言われたのです。

私はその時、「いえ、それには及びません。落とし主の方によろしくお伝えください」と返事をしました。

すると、警察の方は「できれば落とし主の気持ちも大切にしてください。その方の気持ちをしっかりと受け止めてあげてください。このような積み重ねが、地域の安全に繋がっていくのです」と、話してくださいました。

私は、まさにプロの言葉だと思いました。

深く相手のことを思い、そして遠く慮りながら言葉を使っていく。これが「幸せな世の中」に繋がっていくのだということを、この一本の電話を通して、教えていただきました。